

科目名 (英)	美容総合技術 着付け (KIMONO Stylist)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	竹内 亜沙子
		授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期 木曜日1限・2限
【授業の学習内容と心構え】 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 長きに渡り着物の着付けの指導にあたり沢山の門下生を輩出。ブライダル業界では現場での着付けをトータルで指導している。山野流の着付けの資格指導を九州でとりまとめスペシャリストを目指す役割を担っている。着物の専門知識、技術、立ち振る舞いなど基礎からしっかりと習得する授業を行う。伝統文化である着物の重要性和着付けの価値を学習して、継承する授業へ繋げる。業界人として、知識の不可欠さと技術レベルの高揚、達成感を実感して欲しい。実習がメインとなる為、遅刻欠席は出来るだけせず、技術をしっかりと習得して欲しい。							
【到達目標】 着物の基礎知識を学び、浴衣の着付け、小紋と名古屋帯、振袖や留袖の着付けや袋帯の帯結びを習得する。自装・他装の着付け、山野流の初伝・中伝の資格取得。							
【使用教科書・教材・参考書】 □ 山野流着装教室 着物着付け教本				【授業外における学習】 専門用語が多く、着物の名称など教科書で復習する。また、浴衣の着付けなど自装・他装ともに生活の中で実践する。			
回				回	授業概要		
1	【授業単元】 着物の基礎知識、浴衣の着付けと細帯結び方Ⅰ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 着物の名称や基礎知識、縫製や季節感などTPOを理解する浴衣の着付けと細帯の一字結びの手順を理解する。			9	【授業単元】 留袖の着付けと帯結びⅡ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 相モデルで留袖の着付けをする。二重太鼓 交差する方法		
2	【授業単元】 浴衣の着付けと細帯の結び方Ⅱ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 浴衣の着付けと帯結びの習得。細帯のアレンジの仕方体形補正をして着付けのポイントを深める。細帯のアレンジとしては、屏風変わり結びや貝の口結びを習得する。(小テスト7点)			10	【授業単元】 留袖の着付けと帯結びⅢ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 相モデルで留袖の着付けをする。二重太鼓 結ぶ方法(小テスト7点)		
3	【授業単元】 外出着(小紋)の着付けⅠ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 下着の用い方から着物の着付けまで。体形補正をして長襦袢の着方を習得 小紋の着付けは裾線・衣紋・おはしりなどのポイントを確認する。			11	【授業単元】 振袖の着付けと帯結びⅠ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 体形補正から着付けまでを実習。帯結び～二枚扇		
4	【授業単元】 外出着(小紋)の着付けⅡ 名古屋帯の一重太鼓 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 着物の着付けと名古屋帯の結ぶ構造を理解する。帯結びの手順を知る。(小テスト8点)			12	【授業単元】 振袖の着付けと帯結びⅡ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 振袖の着付けのポイントを再確認して、帯結びを完成させる。帯結び～二枚扇(小テスト8点)		
5	【授業単元】 外出着(小紋)の着付けⅢ 名古屋帯の一重太鼓 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 一重太鼓は相モデルで実習し構造を確認その後は自分で結ぶ。			13	【授業単元】 振袖の着付けと帯結びⅢ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 振袖の着付けのレベルアップと変わり帯結びをする。三重仮紐を使った帯結びを展示		
6	【授業単元】 外出着(小紋)の着付けⅣ 名古屋帯の一重太鼓 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 名古屋帯の形、大きさ 高さを意識して実習する。名古屋帯の全通柄・六通柄・お太鼓柄の取り方の展示			14	【授業単元】 留袖の着付けと帯結び(二重太鼓)レベルチェック 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 山野流の中伝査定～相モデルで留袖の着付けから帯結びが出来る。(期末テスト50点)		
7	【授業単元】 外出着(小紋)の着付けと名古屋帯の一重太鼓レベルチェック 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 山野流の初伝査定～一人で外出着の着付けから帯結びが出来る。(中間テスト20点)			15	【授業単元】 着物の着付け総仕上げ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 留袖・振袖着付け総仕上げ		
8	【授業単元】 留袖の着付けと帯結びⅠ 【授業形態】 講義・実習 【到達目標】 比翼のとじ方から留袖の着付け袋帯の二重太鼓の帯結び			【評価について】 評価は筆記試験と実技試験の両方で行う。授業で確認した着物の基礎知識の理解度、技術の習得ができていのかを確認する。小テスト・中間テスト(計50点)と期末テスト(50点)の合計100点満点で評価する。評価は学校規定に準ずる。			
【特記事項】 授業ではシラバスの有効活用、追加内容などは必ずメモをとる。 着付け道具の確認、着付けのしやすい脱ぎ着のしやすい服装で授業に臨むこと。							